

学校だより

翔 空

No. 28 平成23年11月16日(水)
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来 (校舎のシンボル)

壁画「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え限らない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

〔意外と我が子のことがわからない(実感)〕

私には、娘が3人います。すでに社会人(でも未だ無職)となった長女、大学4年生の次女、そして専門学校に通っている三女(ホテル勤務めざして現在インターンで修行中)の3人です。いずれも現在は故郷猪苗代を離れ東京に住んでいます。今になって思うのですが、自分の子どもであるのに(しかも、自分がこういう立場にありながら)、三人の個性に合わせた進路の助言が来ていたかと言うと、とてしなく怪しい感じがします。しかし、子どもたちは、何とか精神的に自立し、自分なりに夢を追い求めています。

【世界の名言(英語版)⑦】

「世界の名言」の第7弾です。どうぞお楽しみください。

When I get old and I look back, I want to regret the things I did, and not the things I didn't do.

(年者いて自分の人生をかえりみたとき、やらなかったことを後悔するより、むしろ、やったことを後悔したい。)

～ジョージ・リンカーン～

アメリカの16代大統領のエブラハム・リンカーンではありません。DJで有名なジョージ・リンカーンという人の言葉です。「やったことで後悔したい」という積極的姿勢をぜひ見習いたいと思います。チャレンジャーして、それで失敗するのならいい。しかし、チャレンジャーせずに後悔だけするのは、もったいない話です。この世に生まれてきたからには、何事にも積極的にチャレンジしたいものです。

「ちよつといい話(感動編)」

～感謝の気持ちをいかに持たせるか～

先週半ばに立冬が過ぎ、今日はすでに11月16日。今年も残すところわずか1ヶ月半となりました。先週頃から早々と冬を思わせる天気が続いています。ちなみに、今週の木・金は、3年生対象の2学期期末テストがあります。

さて、過日、教育関連の書物を読んでいたら、次のようなとても感動的な話が載っていましたので紹介いたします。タイトルは、「親の背中、流したことがありますか?」です。

大学卒業間近の青年のお話。就職試験の面接の真最中のこと。ある試験官が、その青年に向かって尋ねた。「あなたは、今までに親の背中を流してあげたことがありますか?」。青年は予想外の質問に戸惑いながら「いいえ、一度もありません」。面接官は「それでは、今日の面接はこれまでにします。家に帰り、親の背中を流してください。明日にこの続きをします」と言って面接を打ち切った。

青年は家に帰り、母親に「背中を流させてくれ」と頼んだという。年者いてきた母親は「背中を流さなくていいから、足だけでもせめて洗ってくれ」と言った。そう。青年は母親の足を洗いながら改めて見つめると、そこには、丸まってしまった指や黒くなった爪、そして、シミやタコがたくさんあった。「こんなにも母の足は小さくなってしまったのか!」と感じながら、母の足の指一本一本、甲、裏と丁寧に丁寧に洗った。

そうしていくうちに汗が涙と変わり、顔はクシャクシャ、目は涙でかすむほどになった。母親の小さくなった足を見つめ、子どもを育てるために昼夜を忘れて働いた母への感謝の気持ちでいっぱいになった。

皆さんは、この話を読んでどのように感じましたか?年齢・世代の違いにより、感じ方が多少違ってくるかも知れませんが、しかし、何かを感じ取っていただける話であることには間違いありません。私自身、心当たりがないわけではないので、この話を読み終えた後に胸にぐっと来るものがありました。

【連絡】冬を思わせる寒波が近づいて来ています。今年例年より早くストーブの試し焚きをしました。お子様には、防寒具の準備をすると同時に、制服の下に着る下着等で体温調整をするようお話しいただけたらと思います。特に、受験期に入った3年生は風邪をひいて長引くようなことのないように、十分気をつけさせたいものです。

